



UAD Oxford SuprEsser DS

マニュアル



もくじ

1	はじめに	4
2	主な機能	6
3	操作について	7
3.1	シグナルプロセッシングについて	7
3.1.1	アドバンスモードでのシグナルフロー	8
3.2	高度な操作	9
3.2.1	トリガー&ゲインダッキング・モード	9
3.2.2	バンド-バンド・モード	9
3.2.3	バンド-ワイド・モード	9
3.2.4	ワイド-バンド・モード	10
3.2.5	ワイド-ワイド・モード	11
3.2.6	オートマッチック・レベルトラッキング	11
3.2.7	バンドパスフィルターモード	12
4	コントロールの説明	15
4.1	ベーシック・スクリーンコントロール	15
4.1.1	インプットモニター・セクション	15
4.1.2	リッスンセクション	16
4.1.3	フィルターセクション	17
4.1.4	ダイナミクスセクション	18
4.1.5	アウトプットモニター・セクション	19
4.2	アドバンスコントロール	20
4.2.1	モードセクション	20
4.2.2	レベルトラッキング・セクション	20
4.2.3	リアクションエンベロープ・セクション	21
4.2.4	レシオセクション	22

4.2.5	スレッシュホールドセクション.....	24
4.3	グラフィカルスクリーンのコントロール.....	25
4.3.1	コントロールの説明.....	26
5	仕様	28
6	プリセットマネージャー・ツールバー	30
7	著作権と商標について	31

1 はじめに



Sonnox Oxford SuprEsser DSは、ボーカルの歯擦音や摩擦音、管楽器に伴う不要な吹かれや摩擦音などのノイズを処理するために設計された、高機能なプロフェッショナルクオリティのディエッサーです。最も自然なサウンドを得るために、Oxford SuprEsser DSは、選択した周波数帯域のみをディエッシングします。—そのため、高周波がすべてなくなり、もつれたような声になってしまうことはありません。

直感的なグラフィックディスプレイによってわかりやすく視覚的なフィードバックが提供され、調性に必要な周波数やスレッシュホールドを設定する場所をすぐに特定することができます。グラフには、ユーザーによる設定が可能な帯域のスレッシュホールドとピークホールド・レベルがナローバンドシグナルのFFT (Fast Fourier Transform) ディスプレイと共に表示されます。ナローバンドシグナルには、ピークレベルの保持と最大エネルギーを含む周波数が含まれます。

Oxford SuprEsser DSの中心部には、Sonnox Oxford Dynamicsプラグインのコンプレッサーセクションの拡張バージョンです。これは、ピーク信号の正確で透明度の高いコントロールを提供することで知られています。

この周囲に一对のクロスオーバーフィルターが構築され、コンプレッサーが設定した周波数帯域にのみ反応します。これらのノンリニア・フェイズフィルターはSonnox Oxford EQのフィルターをモデルにしており、Oxford SuprEsser DSを正確なマスタリングやミキシング作業に使用することができます。

3種類のリスンモードにより、ミックス、バンドフィルターの出力（内側）、バンドリジェクトフィルター（外側）の出力を確認することができます。

Oxford SuprEsser DSは非常に簡単に、そして素早く使用できるように慎重に設計されています。タイトルページのスクリーンショットは、起動した時点に表示されるプラグインを示しています。周波数帯域を設定したら、ゲインリダクションメーターが動くようになるまでスレッシュホルドフェーダーを下げてください。プラグインは自動的に信号レベルをトラッキングし、それに応じてスレッシュホルドを追従させるので、信号レベルの上昇、下降に応じて相対した量のゲインリダクションが得られます。例えばボーカルトラックでコーラスよりもヴァースの方が大きくなるが、同じ相対量のディエッシングを適用したい場合に最適です。このオートレベル・トラッキングモードではOxford SuprEsser DSがすべてのハードワークをこなします。また、固定スレッシュホルドにも切り替え可能です。

デフォルトの動作モードでは、設定されたバンドの信号をコンプレッサーに送り、そのナローバンドの信号のみに影響を与えます。その結果、コンプレッサーは、特定の周波数帯域にのみ反応し、設定したスレッシュホルドに達した場合にのみコンプレッションを加えます。そして、これら特定の周波数帯域以外の成分には影響を与えません。特定の周波数のみに反応するフルバンドコンプレッションを行おうために、オーディオワイドモードを選択することもでき、コンプレッサーが反応したときに何をコンプレッションするかバンド、またはワイドの組み合わせを設定することが可能です。

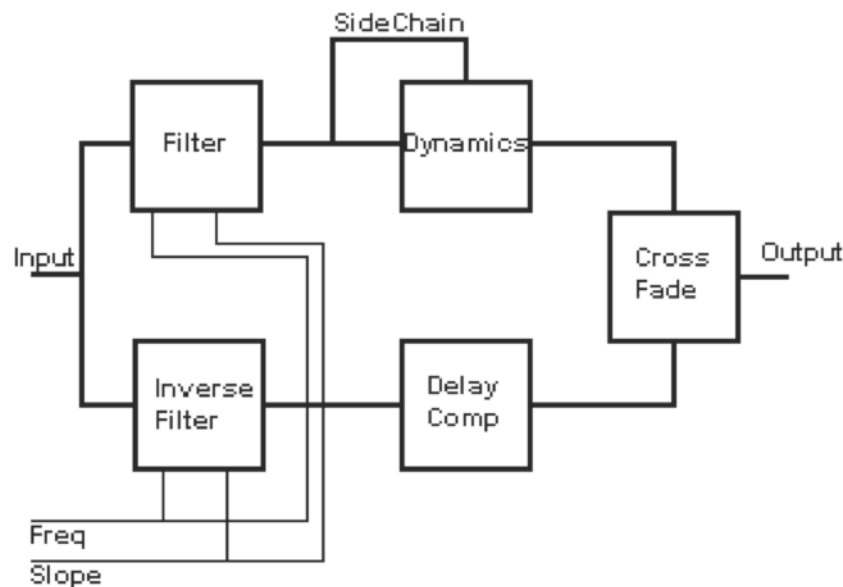
Oxford SuprEsser DSには、音作りの良い出発点として機能するように多くのプリセットが収録されています。アドバンスセクションでは、正確な補正、あるいはクリエイティブな使用のためのすべてのコントロールへのフルアクセスを提供します。

2 主な機能

- 機能性の高いプロフェッショナルディエッサー
- リニアフェイズ・ダイナミックEQ
- アグレッシブに周波数をコントロール
- オートマチック・レベルトラッキングは、エネルギーレベルに追従（スレッショルドをオートメーション化する必要はありません）
- 周波数の検出が容易な大きく直感的なグラフィックディスプレイ
- 幅広いオペレーションスペクトル（1kHz ～ 20kHz）
- 3種類の“リッスン”モード
- わかりやすい操作性
- 音作りの出発点に最適なプリセット

3 オペレーション(操作)について

3.1 シグナルプロセッシングについて



SuprEsser DSの基本的なシグナルフロー

Oxford SuprEsser DSには、相互に対抗する一対のフィルターが搭載されています。デフォルトでは、一方はナローバンドパス・フィルターであり、もう一方は補完的なナローバンド・リジェクトフィルターです。これにより、対象の帯域のコンテンツのみを含む1つの信号パスとこの帯域が完全に取り除かれた入力信号を含む別の信号パスが生成されます。等しい比率でミックスすると元の信号が得られます。

バンドパス信号は通常サイドチェーンとメイン信号パスの両方がコンプレッサーに送られ、この信号だけがゲインリダクションのトリガーとなり、これらの信号だけがゲインリダクションの影響を受けます。

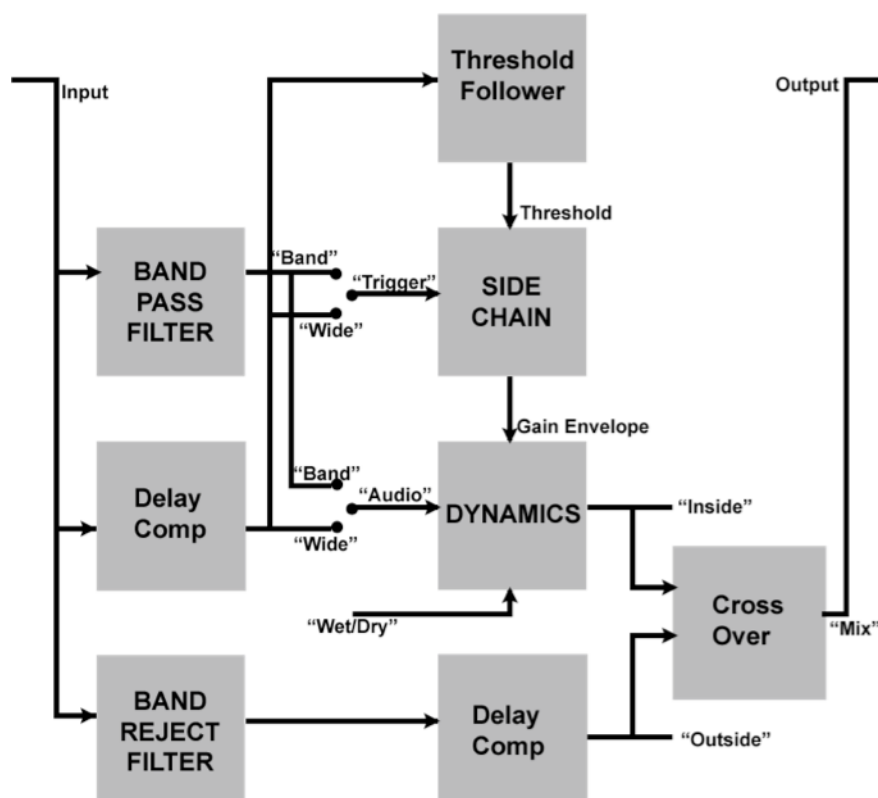
バンドパス/リジェクトフィルターは、状況に応じて他のEQタイプに自動的に切り替わり、合計4種類のEQタイプを提供します。例えば、バンドパスフィルターで“Width”コントロールを最小に狭めると、非常に狭い周波数帯域を大幅に減衰させるハイQノッチフィルターとなります。バンドウィンドウが20kHzにまで達すると、バンドパスフィルターは次のように変化します。

HFカット

3.1.1 アドバンスモードでのシグナルフロー

4種類のEQタイプに加え、サイドチェインにフィードされる信号とコンプレッサーのメイン入力にフィードされる信号に関する4種類のコンプレッサーがあります。詳細については、セクション2.3のアドバンスオペレーション・モードを参照してください。

下図は、アドバンスオペレーション・モードに必要な要素を説明するために完全な信号フローを表示しています。:



アドバンス SuprEsser DSのシグナルフロー

“ウェット/ドライ”コントロールは頻繁に使用する機能であり、コンプレッションされていない信号をコンプレッションされた信号に加えてパンチを与えることができます。上図で分かる通り、ウェット/ドライ・ブレンドコントロールはダイナミクスモジュール内に装備されているため、“ミックス”または“インサイド”を聴いている時に期待通りの動作を行います。

3.2 アドバンスオペレーション

3.2.1 トリガー&ゲインダッキングモード

以下で説明するように、アドバンスモード(モア:)セクションのトリガー、オーディオ・ボタンを使用して選択可能な4つのオペレーションモードがあります。

3.2.2 バンド・バンド・モード

ゲインダッキングは、ナローバンドでトリガーされナローバンドでのみ発生します。



このモード(デフォルト)では、(コンプレッサーサイドチェーンへの)トリガー信号とメインコンプレッサー信号の両方がナローバンド・パスフィルター信号です。

次に、コンプレッサーの出力は、クロスオーバーブロック(“リッスン”セクション)に送られ、対応するナローバンド・リジェクトフィルターでフィルター処理された入力信号のバージョンとミックスして戻します。その結果、プラグインはナローバンドにのみ影響し、同じ周波数帯によってトリガーされ、それ以外の周波数帯には影響を与えません。

このモードでは、オートレベルトラック機能(AUTO IN)も使用すると、スレッシュホールドは、バンドリジェクトフィルター後の(問題のある周波数を除くすべての)信号のレベルに従います。

3.2.3 バンド・ワイド・モード

ナローバンド信号によってトリガーされる(ワイド)入力信号のゲインダッキング。サイドチェーンEQモードのコンプレッサーに相当します。



このモードでは、(コンプレッサーのサイドチェインへの)トリガー信号は、ナローバンドパス・フィルター処理された信号で、メインのコンプレッサーは、(ワイド)遅延入力信号です。

これは、ナローバンド信号がゲインダッキングをトリガーすると、従来のサイドチェインEQコンプレッションと同様に周波数スペクトル全体でダッキングが発生します。

このモードには、Oxford Dynamics compressorの同じモードに比べて大きな利点があります。出力ステージにWET / DRYコントロールがあり、元の信号をコンプレッション号にミックスすることができます。

このモードでは、オートレベルトラック機能(AUTO IN)も同時に使用すると、スレッショルドは、ナローバンド・リジェクトフィルター後の信号の全体的なレベルに従います(つまり、問題のある周波数を除くすべて)。

さらに、コンプレッサーの出力はすでに完全なワイドスペクトル信号であるため、(LISTENセクションの)クロスオーバーコントロールは信号に影響を与えません。

3.2.4 ワイドバンド・モード

ゲインダッキングは、ワイド入力信号によってトリガーされるスペクトルの狭い帯域でのみ発生します。



このモードでは、(コンプレッサーサイドチェインへの)トリガー信号は、遅延入力信号であり、メインコンプレッサーの信号はナローバンドパス・フィルター処理された信号です。

このモードは、例えば、特定の周波数のリダクションをトリガーするために広域のスペクトルのトリガーが必要な場合に便利です。例えば、キックとベースの組み合わせを処理して、キックが発生するたびにクリック音などをリダクションすることができます。

このモードでは、オートレベルトラック機能(AUTO IN)も使用すると、スレッシュホールドは遅延入力信号の一般的なレベルに従います。

3.2.5 ワイド・ワイド・モード

サイドチェインEQのないコンプレッサーと同様です。



このモードでは、トリガー信号(コンプレッサーサイドチェインへ)とメインコンプレッサー信号の両方が遅延入力信号から供給されます。これにより、周波数固有のサイドチェイン処理がない通常のコンプレッサーとなります。

このモードには、Oxford Dynamics compressorに比べて大きな利点があります。出力ステージにウェット/ドライ・コントロールがあり、元の信号をミックスしてコンプレッション信号に戻すことができます。これを使用すると、完全にコンプレッションされた信号(ダイナミックヘッドルームなし)にパンチが加えられたユニークなサウンドを作成できます。

このモードでは、コンプレッサーの出力がすでに完全なワイドスペクトル信号であるため、LISTENセクションは信号に影響を与えません。

3.2.6 オートマチック・レベルトラッキング

オートレベル・トラッキングモードは、“LEVEL TRACKING / AUTO IN”ボタンを選択すると有効になります。これはデフォルトでオンになっています。

このモードの目的は、広帯域入力の一般的な信号レベルに追従するようにスレッシュホールドレベルを自動的に調整することです。これは、一部のボーカルが大音量から小音量になった場合、一時的なピークが一般的なレベルを超えて発生したときに、同じ量の相対的なゲインの低減が適用されることを意味します。

一般的に言えば、周波数スペクトルで問題のあるサウンドをできる限り狭い範囲でアイソレーションすると、グラフィックディスプレイのバンドパスフィルターの内側に、問題のあるサウンドのピークレベルを示す赤いピークホールドマーカーが表示されます。

次に、オートトラックモードを有効にし、グラフ上の対応する線が赤い線より下になるまでスレッシュホルドレベルを下げると、ゲインリダクションメーター (ATTENUATION) がゲインリダクションを表示し始めます。

素材の一般的な信号レベルが変化すると、スレッシュホルドがそのレベルに追従するため、ゲインリダクションメーターは同じ量のピークの減少を示し続けるはずですが。

一般的な信号レベルをトラッキングするアルゴリズムは、見た目ほど単純ではありません。まず、スピーチの最も重要な特性の1つは、スタカート、頻繁な一時停止、沈黙です。スレッシュホルドが信号レベルに忠実に追従している場合、子音で始まる単語によって中断が発生するたびに、スレッシュホルドが低くなりすぎて、スレッシュホルドが通常のレベルに戻る前に子音が過度にゲインリダクションしていました。

この問題を回避するために、アルゴリズムは24dBの動作範囲を持ち、このウィンドウ外のサンプル値は一般的な信号レベルの計算に含まれません。入力信号を断続的にミュートすると、スレッシュホルドは効果的にアクティブな信号があったときの場所にとどまり、アクティブな信号が復元されたときに再びトラッキングし続けることがわかります。しかし、入力信号レベルをゆっくりとフェードアウトさせると、スレッシュホルドが追従し、36dBのゲインリダクションを行った後諦めてしまいます。

したがって、オートレベルトラッキングは、連続的な素材や、頻繁な一時停止で分割された会話でうまく機能するよう設計されています。

3.2.7 バンドパスフィルター・モード

バンドパス・モード

デフォルトでは、Oxford SuprEsser DSはバンドパスフィルター（およびインバースフィルター、バンドリジェクトフィルター）を使用して、選択した周波数レンジのオーディオをアイソレーションします。FREQUENCYおよびWIDTHコントロールは、使用されるフィルターのローエッジとハイエッジを定義し、SLOPE / Qコントロールは、信号が周波数スペクトルでゲインダッキングからノンゲインダッキングにブレンドする速度を設定します。スロープが急でないことの影響は、周波数スペクトルのゲインリダクションされた領域とゲインリダクションされていない領域との間をスムーズにブレンドさせることですが、特定のトリガーが少なくなります。

このモードでは、Oxford R3フィルターのペアを使用してバンドパスフィルターを作成し、合計で1オクターブあたり最大72dBのアイソレーションを実現します。

他にも3つのモードで使用可能で、特定の状況に応じて自動的に切り替わるようになっています。

ハイQノッチ・モード

ワイズコントロールを 0.2 オクターブまで下げると、ハイQノッチモードが有効になります。このモードでは、R3フィルターの代わりに4つのOxford EQ Type-2フィルターを使用し、ノッチのセンターポイントで合計80dBのゲインリダクションを実現します。このモードは、リダクションしたいエネルギーの帯域が非常に狭い場合や、ホイッスルのように単一の周波数である場合に有効です。

このモードでは、スロープコントロールを下げることで、フィルターのQを下げるができます。この効果は、周波数スペクトルのゲインリダクションされた領域とゲインリダクションされていない領域の間を、より滑らかにブレンドをすることができますが、その代償としてトリガーのスペックが低くなります。

LF-カットフィルター・モード

バンドパスフィルターの左端を20Hzまで下げるとLFカットフィルターモードになります。これは、バンドパスウィンドウの下端が0Hzになることを意味し、DC成分を含むサブバスの破裂音やその他のノイズを取り除く場合などに有効です。

このモードでは、信号があるスレッショルドに達したときだけLFカットフィルターが作動し、カットされた周波数がバンドパスウィンドウの上端によって除去されると考えてよいでしょう。

HF-カットフィルター・モード

バンドパスフィルターの右端を20 kHzまで上げると、HFカットフィルターモードが有効になります。これは、バンドパスウィンドウの上端が効果的に ∞ Hzであることを意味します。これは、たとえば信号のHF部分全体をダッキングする場合に便利です。

このモードでは、信号があるスレッシュホールドに達したときにのみ作動するHFカットフィルターと考えることができ、カットされた周波数はバンドパスウィンドウの下端によって除去されます。このようにして、より典型的なデエッサーとして動作します。

4 コントロールの説明

4.1 ベーシックスクリーンのコントロール



プラグインをインサートすると、ディスプレイはデフォルトでズームアウトモードになるので、スペクトルの中でセンターバンドがどこにあるかの全体像をすぐに見ることができます。

センターバンドを何らかの方法で移動させると、そのバンドの中心周波数がディスプレイの上部と下部の両方に見やすい形で黄色くはっきりと表示されます。これは、特定の周波数を狙っている人が、その周波数に向かって移動するときに、中心周波数がはっきりとわかるようにするためです。経験豊富なエンジニアは、自分が抑えたい周波数を認識していることが多いので、その周波数を狙うための明確なガイダンスが欲しいと考えています。

4.1.1 インプットモニター・セクション

インプットレベル・モニター

このメーターは、ダイナミックレンジの上位18dBのLEDあたり1dB、それ以降のLEDあたり2dBを正確に与えるように設計されています。これにより、作業中のヘッドルームを明確かつ直感的に把握することができます。

インプットトリム

入力信号レベルを最大 ± 12 dBまで調整できます。

デフォルトの動作では、コンプレッサーのスレッシュホールドは多かれ少なかれレベルに依存しないことは事実ですが、スレッシュホールドが0dBを超えることはできないため、ピークを0dB未満に下げように入力レベルを調整したい場合があります。

4.1.2 リスンセクション

プラグインのこのセクションでは、2つのシグナルストリームの出力をミックスするクロスオーバーという観点から、あなたが聞いているものをコントロールすることができます。

一部のユーザーは、問題のあるサウンドをアイソレートし、バンドパスフィルターを狭めてその部分だけを含めるようにします。— このようにして、コンプレッサーは周波数スペクトルの絶対最小値のみに影響します。これは、バンドパスマークのラベルが付いたINSIDEボタンをクリックすることで行うことができます。

バンドリジェクトモードでの作業を好む人もいます。このモードでは、ナローバンド・リジェクトフィルターシグナルを聞いて、問題のある音が聞こえ始めるまで帯域を狭めます。これを行うには、バンドリジェクトマークのラベルが付いた“OUTSIDE”ボタンをクリックしてください。

MIX ボタン

これにより、クロスフェードが50%に正確に設定され、バンドリジェクト信号と(コンプレッションされた)バンドパス信号が均等にミックスされ、出力に送られます。

INSIDE ボタン

コンプレッサーで処理されたバンドパスフィルターの出力を聴くようにクロスフェードを設定します。その後、エフェクトを使用できます。:IN ボタンを使って、コンプレッションの有無に関わらず聴くこともできますし、WET/DRY コントロールを使って、コンプレッションされた信号とそうでない信号のブレンドを調整することもできます。

このモードでは、バンドの中心周波数を周波数スペクトルの上下にスウィープすると、スペクトルのナローパート（狭い部分）しか聞こえないので、スペクトルのどこに問題のあるノイズがあるのかを素早く特定することが可能です。

OUTSIDE ボタン

バンドリジェクト・フィルターの出力のみが聴こえるようにクロスフェードが設定されます。これはバンドパス・ウィンドウの外側にあるすべてのものであるため、この名前が付けられています。このモードでは、バンドフィルターの中心周波数をスペクトルの上下にスワイプすると、作業する領域に当たったときに不要なノイズが消えます。

4.1.3 フィルターセクション

このセクションは、フィルターのキャラクターを指定することができます。:

フリークエンシーフェーダー&タッチパッド

グラフィカルディスプレイの下の水平フェーダーと、それに関連する“フィルター”セクションのタッチパッドは、バンドパスフィルターとバンドリジェクトフィルターのペアの中心周波数をコントロールし、表示します。コントロール可能な範囲は、20Hzから始まり、低周波数帯のトリートメントだけでなく、中高周波帯のトリートメントも可能にします。バンドフィルターの中心周波数は、ディスプレイの上部にある黄色の“センター”マークを(水平方向に)ドラッグすることで、グラフ自体で変更することもできます。このコントロールの場所が分からない場合は、セクション3.3グラフィカルスクリーン・コントロールを参照してください。

バンドパスフィルターのローエッジが20Hzに達すると、プラグインはハイエッジ・クロスオーバーのみを使用するように切り替わります。これは、バンドパスウィンドウがDCまで拡張され、新しい便利なモードになることを意味します。詳細については、2.3アドバンスオペレーション・モードを参照してください。

ウィズ(WIDTH)・タッチパッド

これは、バンドパスとバンドリジェクト・フィルターのペアの幅(WIDTH)をオクターブ単位でコントロールします。コントロール可能な範囲は、20Hzから20kHzまでのほぼすべてのスペクトルを可能にする十分な広さを持っています。グラフの黄色の中心を垂直方向にドラッグするか、またはフィルターの上部、または下部の周波数マーカを水平方向にドラッグして、フィルターの幅を中心点を基準に変更することも可能です(詳細については、セクション3.3グラフィカルスクリーン・コントロールを参照してください)。

幅を0.2オクターブまで狭めると、バンドパスフィルターがトリガーされ、新しいタイプのフィルターであるハイQノッチフィルターに切り替わります。これは、特定の周波数に起こった不必要な音など、非常に狭い周波数帯域を削除する必要がある場合に役立ちます。詳細については、セクション2.3アドバンスオペレーション・モードを参照してください。

SLOPE/Q タッチパッド

これは、バンドパス・フィルターとバンドリジェクト・フィルターの実装に使用されるフィルターのスロープをコントロールします。一般的に言って、問題のある音と問題のない音を最大限にアイソレーションするには、適切な設定が必要です。それには、緩やかな傾斜を使用すると、音楽的、そしてクリエイティブな可能性を見つけることができます。たとえば、低い設定を使用すると、ゲインダックされた音と元の音がよりスムーズにブレンドされます。それは、ゲインリダクションを大量に行った場合に顕著になります。

フィルターの左右の幅の線の上部にある赤い矢印を垂直方向にドラッグして、グラフ自体のスロープを変更することもできます(詳細については、セクション3.3グラフィカルスクリーン・コントロールを参照してください)。

4.1.4 DYNAMICSセクション

スレッシュホルドフェーダー & タッチパッド

スレッシュホルドフェーダーは、グラフ上の青いスレッシュホルドラインにリンクされており、赤いピークレベルラインと関係があります。スレッシュホルドは、タッチパッドを垂直方向にドラッグして変更することもできます。

一般的に言えば、バンドパスフィルター・アジャストコントロール(周波数、ウィズ、またはグラフをドラッグコントロール)を使用して、周波数スペクトル内の不必要な音をできるだけ狭く分離した後、ゲインリダクションを始めるまでスレッシュホルドフェーダーを下げると必要があります。

デフォルトでは、スレッシュホルドは信号レベルに関連しているため、オーディオ信号のレベルが変化すると、スレッシュホルドの線がグラフ上で上下に移動します。適切な量のゲインリダクションが行われているのが確認できるまで、スレッシュホルドを調整する必要があります。プラグインは、一般的な信号レベルをトラッキングすることにより、信号レベルが上昇または下降しても、このゲインリダクション量を一定に保とうとします。

エフェクト: INボタン

メインコンプレッサー信号のダイナミクス処理の有効/無効を切り替えることができ、ゲインリダクション・エフェクト効果の比較の有無にかかわらず、グリッチを発生させることなく実行できます。

アタック・タッチパッド

コンプレッサーのレスポンスの速さを決定します。数値が小さいほどレスポンスが速くなり、得られる結果が分かりにくくなります。速すぎる場合、歪みとなって聴こえる場合があります。数値が大きくなるとレスポンスは遅くなり遅すぎると摩擦音に反応してTのような子音の硬いエッジをキャッチすることができない場合があります。

アッテネーションメーター

瞬間的、または前の数秒間の最大リダクションを示すピークホールドレベルを表示してどの程度ゲインリダクションされているかを示します。メーターは、正確に1dB単位で動作します。

4.1.5 アウトプットモニター・セクション

トリムdB タッチパッド

出力レベルを最大12dB下げることができます。ディザリングは、出力ゲインコントロールの後、クリッピングを避けるためにこの値を少し下げることがあります。

ウェット/ドライタッチパッド

必要に応じてリバーブのウェット/ドライコントロールのように原音の一部を出力にミックスすることができます。これを使用することで非常に太いコンプレッションサウンドを作ることができ、原音のサウンドを少し追加することでダイナミックなキャラクターを取り戻すことができます。Oxford SuprEsser DSをベーシックなコンプレッサー(ワイド/ワイド・モード: 詳細はセクション2.3のアドバンスモードを参照)として使用する場合、特に役立ちます。

100%に設定した場合、ダイナミクス処理後の信号だけが聴こえます。0%では入力信号のみが聴こえます。50%ではそれぞれの等しいブレンドが聴こえます。通常は100%で使用してください。

アウトプットレベル・メーター

アウトプットメーターは、ダイナミックレンジの上位18dBに対して正確に1dB単位で表示し、その後は2dBごとに表示されるよう設計されています。これにより、ヘッドルームとダイナミックレンジにたいし、明確で直感的な印象を得ることができます。2秒間ピークを保持するピークホールド機能があり、ダイナミックレンジ(ピークとゼネラルレベル間のセグメント数)の印象をわかりやすくすることに役立ちます。

4.2 アドバンス・コントロール

高度なコントロールにより、Oxford SuprEsser DSを汎用性が高く、特定の周波数に向けたコンプレッサーとして使用することができ、プラグインのダイナミクスセクション内のすべてのコントロールにアクセスできます。

4.2.1 モードセクション

トリガーボタン

“ワイド”と“バンド”を切り替え、コンプレッサーのサイドチェインにフィードされる信号のタイプ(ゲインダッキングをトリガーするために使用される信号)をコントロールします。モードの説明については、セクション2.3アドバンスモードを参照してください。

オーディオボタン

“ワイド”と“バンド”を切り替え、コンプレッサーのメイン信号パスにフィードされる信号のタイプ(ゲインダッキングされる信号)をコントロールします。モードの説明については、セクション2.3 アドバンスモードを参照してください。

4.2.2 レベルトラッキングセクション

オートイン・ボタン

スレッシュホールドが機能するモードをコントロールします。“オートレベル・トラッキング”モード(つまり、“イン”ボタンが選択されている場合)では、コンプレッサーのトリガースレッシュホールドはワイド入力信号の一般的なレベルに従い、スレッシュホールドフェーダーはその一般的な信号レベルに関連したスレッシュホールドを調整します。

静かな音と大きな音を同じように相対的なゲインリダクションを行いたい場合(例: それぞれに一般的な信号レベルに対して6dBのゲインリダクションが必要とする)、オートレベルトラッキング・モードを使用してスレッショルド・フェーダーをグラフに示されているピークよりも6dB低い位置に設定してください。

“アブソリュート”モード(INボタンが選択されていない状態)では、スレッショルドフェーダーがコンプレッサーのスレッショルドの絶対レベルをコントロールします。したがって -10dBに設定されている場合は、そのレベルを超える信号はゲインリダクションをトリガーします。

ダンピングタッチパッド

“オートレベルトラッキング”モードでは、ワイド入力信号の一般的なレベルとトラッキングするために使用されるタイムコンスタンスをコントロールします。つまり、ダンピング値が小さいほどスレッショルドレベルが新しいレベルによって上がったたり下がったりし、値が大きいほどスレッショルド値は安定します。

一般的に、扱う素材と一致する可能な限り最大の価値を得たいと思います。一般的なセリフやボーカルの場合、一般的な信号レベルの変動はあまり大きくないため値を大きくすることで十分対応可能です。つぶやくような声から叫び声に急激に変化する場合、コンプレッサーが十分に素早く適応するために必要なタイムコンスタンスは小さくなります。

“オート・レベルトラッキング”が使用するアルゴリズムは、入力レベルの上昇に対して素早く反応し、レベルの低下に対しては緩やかに反応します。これは、レベルが急激に低下するとプラグインのゲインが低下する傾向にあり、レベルが急激に上昇するとゲインが最小限に抑えられることを意味します。これは無音状態からいきなりフルパワーで歌い出すボーカルやスピーチを補うときに役立ちます。

4.2.3 リアクションエンベロープ・セクション

アタック、ホールド、リリース・コントロールは、トランジェントがスレッショルドを超えたときに作成されるゲインリダクションエンベロープの形状を定義します。

アタックタッチパッド

ゲインリダクションがどれくらい早く始めるかを設定します。速いアタックタイムを使用することを最良と思われることがありますが、遅いアタックタイムの方がナチュラルで音楽的なコンプレッションに聴こえます。一般的にディエッシングには、歪みの無いできるだけ早いアタックタイムが必要です。しかし、低周波数帯域のサウンドを扱う場合には、アタックタイムを遅くする必要があります。

ホールドタッチパッド

ゲインリダクションが減衰する前にそのレベルをホールドする時間を設定します。一般的に言えば、これはディエッシングに使用する場合はできるだけ小さい値にする必要があります。

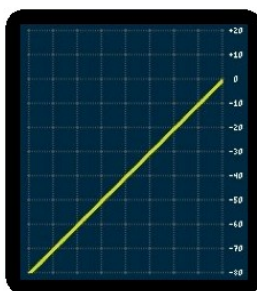
リリースタッチパッド

ゲインリダクションがトリガーされた後、ゲインリダクションが通常の値に戻るまでの速さを設定します。歪みを避けるために最小設定よりも大きくする必要があります。アタックとリリースが早すぎるとゲインエンベロープは信号の一般的なレベルエンベロープにフィットせず、波形自体にフィットするために歪みが発生することがあります。

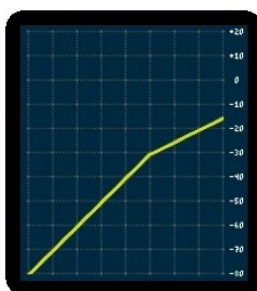
4.2.4 レシオセクション

レシオフィーダー & タッチパッド

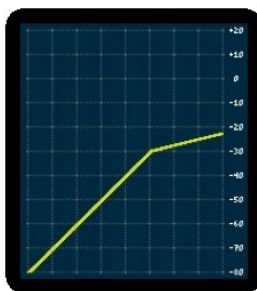
信号がスレッシュホールド値に達したときのコンプレッサーの入力と出力のゲイン比を設定します。レシオの設定は入力/出力のゲイン特性を描くことができるため角度として表示されます。



45 度、レシオ 1:1、コンプレッション無し



26 度、レシオ 2:1、穏やかなコンプレッション



14 度、レシオ 4:1、大幅なコンプレッション

レシオフェーダーの右側にある便利な目安に注目してください。

例えば、約26度で2:1に設定された場合、コンプレッサーは信号を穏やかにコンプレッションし、スレッシュホルドレベルを超えた信号のダイナミックレンジを半分にします。

0度に設定するとコンプレッサーはリミッターとして機能します。アタックタイムが遅いためにコンプレッサーから逃げてしまうトランジェントを除き、出力がスレッシュホルドレベルを超えることはありません。

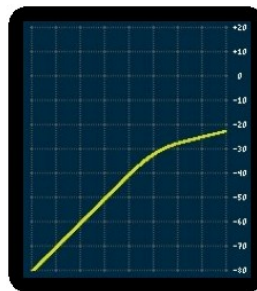
ただし、レシオコントロールは、正の値に限定されません。コンプレッサーのスレッシュホルドに対して過剰反応させたい場合は、-22度など負の値に設定します。これによりスレッシュホルドを超えた場合のゲインのリダクション量が約2倍になります。例えば、スレッシュホルドがピークよりも-6dB低い場合にレシオが-22の場合、12dBのゲインリダクションが得られます。

これは単にスレッシュホルドを下回るのではなく、歯擦音を取り除きたい場合にも有効です。

ソフトニー・ボタン

信号レベルが実際にスレッシュホールドに達したときに突然にゲインが低下するのではなく、信号レベルがスレッシュホールドに近づくにしたがって徐々にゲインが低下するよう設定が可能です。

設定した値 (5dBステップで最大20dB) が大きいほど、スレッシュホールドに達する前にゲインリダクションが始まります。特定の周波数のコンプレッションを行う場合、このコントロールによりブリックウォールリミッティングではなく、よりナチュラルなコンプレッションが可能になります。



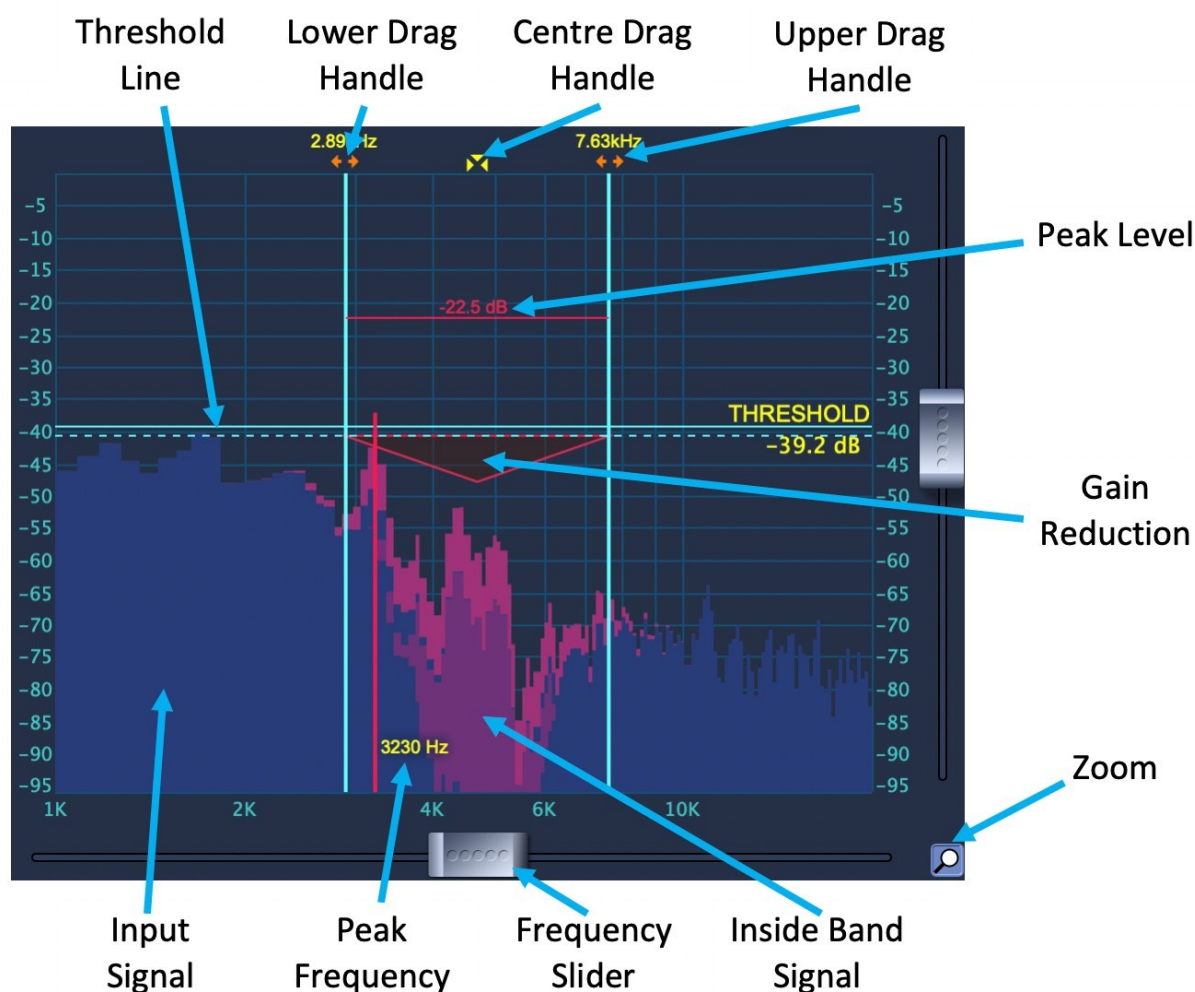
10 dB ソフトなレシオ

4.2.5 スレッシュホールドセクション

メイクアップ・タッチパッド

コンプレッション後に適用されるゲインの量を設定します。メイクアップは、特定の周波数帯内でのバックグラウンドレベルを上げたいがピークをそのままにしておきたい場合に便利です。

4.3 グラフィカルスクリーンのコントロール



Oxford SuprEsser DSのグラフィックディスプレイは直感的な操作が可能です。このディスプレイには、正確なスレッシュホルドやフィルターフリークエンシーなど必要なすべての重要な情報が表示されます。

以下の説明では、フォーム(1)の図の注釈を参照しています。

動作中は、入力信号(8)のFFT(高速フーリエ変換)が表示されます。上のピンクの領域は、ゲインリダクションの効果を示しています。FFTは対数スケールでプロットされ、実際のdB値に関連しているため、特定の周波数帯域にどれだけのエネルギーがあるかを明確に把握できます。

FFTは、重要な赤いピーク保持垂直線を示しています（10）。このピーク値は、バンドパスウィンドウ内で最もエネルギーの高い周波数を示すので便利です。これにより、歯擦音の中心がどこにあるかわかるようになります。

このピークをクリックすると、ウィンドウがこの周波数の中央に配置されるため、より適切に分離されます。

スレッシュホールドを特定するために、もっとも重要なのは赤い時間領域のピーク値です(5)。これは、バンドパスフィルターを出たオーディオ信号のピーク dB レベルを示します。その下に、スレッシュホールドを表す青い線が見えます(1)。

この2本の線の間の距離は、得られるピークのゲインリダクション量を示しています。2:1（デフォルト）のレシオでは、スレッシュホールドがピークより12dB低い場合、ピークが発生したときに6dBのゲインリダクションが得られる傾向にあります。

どのように機能するかを理解すると、ほとんど聴かなくてもスレッシュホールドを設定できるようになります！

4.3.1 コントロールの説明

バンドフィルター・ロウワー&アッパー・カットオフドラッグハンドル

これらのハンドルをドラッグすることで、バンドフィルターの下端や上端を好きなように動かすことができます。ハンドルは、バンドフィルターの下限と上限、より正確には使用されているフィルターの-3dBカットオフ・ポイントを示す青い垂直線の上にあります。

バンドパスフィルター・オーディオ出力ピークホールドレベル

バンドパス・ピークホールドメーターは、ダイナミクス処理に送られる前に、バンドパスフィルターから出力されるピーク信号レベルを示します。この線とスレッシュホールド値のライン(6)の間の距離は、最終的に得られる(ピークの)ゲインリダクションの量なので、これはとても重要な情報です。ホールドタイムは2秒です。

セントラルフィルター・ドラッグハンドル

バンドウィンドウの中心周波数を左右にドラッグしてスケールを上下に動かすことができます。また、上下にドラッグすることで、バンドウィンドウの幅を広げたり狭めたりすることもできます。

また、グラフ上のお好みのポイントをクリックすると、周波数スペクトルのこの点を中心にバンドフィルターが配置されます。マウスを押したままにすると、フィルターを上下にドラッグしたり、センタードラッグハンドルと同じように拡大/縮小を行うことができます。

ウィンドウをスムーズに広げ、FFTピークを確認してから、1回の移動で1つのピークに戻ることができ、各ピークをすばやくアイソレーションして聞くことができます。

ゲインリダクションインジケータ

この赤字のエリアは、発生するゲインリダクションの形状と量をリアルタイムで表示します。形状はスロープインジケータに従い、ピンクのFFT領域の形状にほぼ対応しています(上記の7を参照)。

スレッシュホールドライン

このラインは、現在設定されているスレッシュホールドレベルを示しています。一般的な信号レベルが上下すると、ラインも上下に移動します(スレッシュホールドを“Absolute”モードに切り替えた場合を除く)。信号の入力がないとき、または無音の信号が存在するときにスレッシュホールドラインを移動すると、信号が戻ったときに発生する推定レベルが設定されます。これは、グラフ上で点線(またはゴーストスレッシュホールドライン)として表示されます。

セントラル FFTピーク

ピークエネルギーを持つバンドウィンドウ内の重要な周波数に注意を向けます。これは、処理したい子音や摩擦音を示している可能性が高いでしょう。このピークをクリックすると、バンドの中心がこの周波数に集中し、その周波数をアイソレーションすることができます。

ズームイン/アウト

クリック、またはドラッグしてズームイン、ズームアウトすることができます。

5 仕様

対応しているサンプリングレート

フォーマット	サンプリングレート
UAD	44.1、48、88.2、96kHz

入力 - 出力

パラメーター	レンジ
入力トリム	-12 to 12 dB
出力トリム	0 to -12 dB
ウェット/ドライ	0 to 100%

フィルター

パラメーター	レンジ
ワイズ	0.2 ~ 4.45 オクターブ
スロープ	12 ~ 72 dB/オクターブ
周波数	1 kHz ~ 20 kHz

コンプレッサー

パラメーター	レンジ
スレッショルド	0 ~ -84 dBFS
アタック	0.01 ~ 52 ms
ホールド	0.01 ~ 30 sec
リリース	0.01 ~ 3.11 sec
レシオ (degrees)	45 ~ 0 to -22.5
レシオ	1:1 ~ Inf:1 ~ -2.5:1
ゲインメイクアップ	0 ~ 24 dB
ソフトニー	0、5、10、15、20 dB

パラメーター	レンジ
オートレベル・トラッキングのタイム	0.1 ~ 10 sec

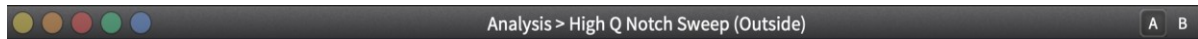
リッスンモード

ミックス、インサイド、アウトサイド

プロセッシングモード

モード	
トリガー	バンド、ワイド
オーディオ	バンド、ワイド

6 プリアンプマネージャー・ツールバー



Sonnox Oxfordプラグインには、プラグインウィンドウの上部に表示される独自のプリセットマネージャーが備えられており、一貫性のある多用途のインターフェイスを提供しながら、すべてのホストアプリケーション間でプリセットを共有できるようにするためです。ほとんどのホストアプリケーションでは、プリセットの作成、セーブ、ロードを可能としながらも、それらのホスト上で作成したプリセットを他のホストアプリケーションで使用することはできません。Oxfordプラグインのプリセットマネージャーを使用することによって1つのホストアプリケーションで作成したプリセットを別のアプリケーションでもロードして使用することができます。

Sonnox プリセットマネージャーについては完全な情報は、“コンパニオン・ドキュメント”の“Sonnoxツールバー&プリセットマネージャー・オペレーションマニュアル”に記述されています。—www.sonnox.com/docs

7 著作権と商標について

商標、及びコンテンツの著作権 © 2007年現在、すべてをSonnox社が保有。無断複写転載を禁じます。

Sonnox®、および5つのドットロゴはSonnox Ltd.の登録商標です。

本製品は、Sonnox Ltdによって製造および供給されています。この製品は、1つ以上のヨーロッパおよび/または米国の特許によって保護されています。

DIGIDESIGN、AVIDまたは、PRO TOOLSは、各社の登録商標、または Avid Technology, Incの登録商標です。

STは、Steinberg AGの登録商標です。

その他すべての製品名、及び会社名はそれぞれの所有者の商標、または登録商標です。